N　o　g　a　t　a

2022、12、20

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム　出会いとつながりと学びの良循環

今年度になって入部してきた子どもたちの急成長には目を見張るものがありますが、５人でつくる（つなぐ）プレーのかみ合わせは、まだスムーズなものではありません。課題はまだまだたくさんあります。しかし、それが、ノビシロの大きさを感じさせるものにもなっており、どこまで伸びるのか楽しみです。個々の運動能力の高さに加えて生活習慣の改善が伴うようになり、本当に大きく成長し始めています。

一人の子がこう話してくれます。

前までは、何もしたいことがなく、毎日ゲームばかりしてました。土日などは、朝から晩までしてました。でも今はあまりしません。バスケットに出会えて、本当にしたいものに出会えて変わりました。よかったです。今は、授業中もちゃんと話を聞いて勉強もするようになったので、少しずつわかるようになってきました。ゲームは好きでしたけど、本当にやりたいことだったかというと、そういうものではありませんでした。することがなく暇なので、ゲームで時間をつぶしてた感じでした。やればおもしろいので、ずっとやってました。

このような主旨のこと言います。自分で自分のことをちゃんとふりかえることができる力（自己認識力）をもっています。同様のことをほかの子も言います。なかなかうまくいかなかった子が立ち上がったときには、私たちおとなが学ばされる金言を残してくれますね。

勉強が大事だからと、子どもが本当にやりたいものに制限をかけて、勉強を強制してもなかなか身につくものではありません。いったん身についたように見えても、すぐに剥がれ落ちてしまいます。子どもを学習に向かわせる力は、自分が本当にしたいものに出会うことだということを、子どもたちが教えてくれます。そのことのためならがんばれる。そして、学習によって得られる知識は、そのことのための役に立つ、重要であることがわかるようになる。そうなれば、学習することが楽しくなる。だからまた励むようになる。このことを、私たち教育研究に携わっている者の間では、「出会いとつながりと学びの良循環」と言って大切にしています。

逆に、「やりたいことがない―勉強のおもしろさがわからない―でも勉強することを強制される―やる気が起きないなかで押しつけられても身につかない―成果が出ないので、やってもどうせわからんとあきらめてしまう」、この悪循環に陥っている子は少なくありません。「学力向上が課題である」と、学力テストの結果（点数）ばかりを示して叱咤激励するということがよく行われますが、問題はそこではないですね。本当にやりたいことに出会えること、そのことを通して学ぶ楽しさを感得すること、いっしょにがんばれる（励む）なかまをもつこと、そういうなかまになること、こ

んなことを生み出すのが教育であるべきだと私は思っています。それがあれば、その子にとっての学力はおのずと引き上げられていきます。